

(2) 開発が進む地域^{いき}

① ふえる人口



上のグラフを見てみましょう。昭和40年ごろから青梅市に住む人の数がとても多くなってきていますね。それは、なぜでしょうか。

昭和34年から青梅線に東京駅までの直通電車が走り、昭和37年には東青梅駅までが複線化^{ふく}されたりして、都心への交通がたいへん便利^{べんり}になりました。

また、河辺駅の近くの道路や水道が整備され、たくさんの住宅が建てられるようになりました。



<朝の河辺駅>

そして、都心に働きに行く人たちの新しい家もたてられて、多くの人に住むようになりました。

さらに、西東京工業団地^{だんち}や三ツ原工業団地などに多くの工場ができると、そこで働く人たちが家をたてるようになりました。

このようなことから、青梅市の人口はどんどんふえていったのです。



丘陵地に建てられた家



畑の中に建てられた家

青梅市では、新しく住むようになった人たちのために、学校や公園などの公共施設をたくさんつくりました。また、道路や水道を整備して、住みやすい環境をつくるために長い間努力してきました。

その後も青梅市に住む人の数が増えていきました。

しかし、多くの人々が家を建てるようになってくると、それまで田や畑だったところが、家をたてる土地や工場などの土地にかわってしまいました。

そのため、これまであった豊かな自然が、年々へってきてしまいました。

